

社会福祉法人 日本介助犬協会

I 令和3年度 事業計画

1. 基本方針

2019年12月、中国武漢で始まった新型コロナウイルスは、みるみる全世界を脅威に巻き込み、多くの死者、重症者を出しました。パンデミックは私たちの生活を大きく変え、互いを思いやり、行動変容することを強めています。

我が国は、諸外国ほどの厳しいロックダウンではないものの、緊急事態宣言が出されること2回、今や第三波に対応し切れず、全ての人々が不安ななかで生活を送っています。今後もしばらくは感染拡大の収束は見通せず、今年もまた辛抱の年になるものと思われま

す。我々の介助犬育成事業もまた、大きく変容を強いられました。年間350回を超えるイベントはことごとくキャンセルとなり、訓練センターの見学会も開催できなくなりました。基礎疾患のある介助犬希望者では、感染リスクを考慮すると、他府県からの往來を必要とする体験会、相談会、訪問調査や合同訓練など、困難を極めています。

しかしながら、そのような今だからこそ、これまで行ったことのない、オンラインでの見学会や相談会、体験会を企画し全国の希望者に呼びかけたところ、遠方からも、これまでで最も参加人数の多い相談会、体験会を行うことが出来ました。移動障害を伴う障害者にとっては、オンラインイベントはメリットの方が多いことを実感しました。

新型コロナウイルスは、個々の人、集団の分断を起こす脅威をもつ恐ろしい感染症です。残念ながら、国内外ともに、児童虐待や性被害が増加し、傷ついた子供たちへの支援が急務の課題となっています。そのような背景のなか、2020年度は、数年前から小児精神科の医師から相談を受けておりながら要望にお応えすることができなかった ファシリティドッグの貸与を実現することができました。また、その先の更なる活動として、コートハウスファシリティドッグ（司法の場で子供に寄り添い、面接や証言の際に発言する勇気を与えるための支援をする犬）とハンドラーとしての職員派遣をする、「付添犬」派遣事業の取り組みが実現し、我が国では最初の司法の場での付添犬派遣の歴史を切り開くことができました。

人々も社会も不安定な状況のなか、心に寄り添う犬の存在は、人類にとってこれまで以上に多くの活躍が期待されるものと確信します

補助犬法上の介助犬だけではない、広い意味での「介助犬」の活躍の場を切り拓いていくことが、当協会の使命であると感じさせられた2020年でした。この経験をもとに、更なる発展の2021年に繋げていくことをお誓いしたいと思います。

理事長 伊藤 利之

2. 取組事項

1. 介助犬育成事業

リハビリテーション専門職と連携を図り、介助犬希望者に対して個々の障がいにあった介助犬を提供する。介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～に於ける体験・合同訓練および在宅訓練の指導を行う。

(1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与

介助犬を育成し、3～5名の肢体不自由者(新規0～1名、代替え4名)に対し介助犬の貸与を目指す。

(2) 犬の飼育及び訓練

① 18頭(内、新規訓練犬9頭)の訓練犬に対し、評価及び訓練を実施する。

② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して預かり訓練、訪問指導を実施する。

(3) 繁殖

① 2～3回の出産を行い、12～18頭のパピーを確保する。

② 9頭の繁殖犬(雄3頭、雌6頭)を確保する。(新規1頭)

③ 犬山動物総合医療センターの協力のもと、2～3回人工授精手術を実施する。

④ 岐阜大学へ凍結精液の作成を依頼する。

(4) 介助犬使用者に対する継続指導

① 介助犬使用者17名に対し、継続指導を行う。

② 「使用者の集い」を10月31日(日)に開催する。

(5) 介助犬使用者に対する就労・継続支援

介助犬使用者の就労希望に対し、就労支援機関と連携を取りながら個々に合わせた就労・継続支援を行う。

2. 普及啓発・広報活動

介助犬・身体障害者補助犬法の認知度向上および寄付収入確保を目的に、普及啓発・広報活動を展開する。

介助犬希望者・個人支援者・支援団体企業、マスメディアなど、対象者ごとに必要な情報が提供出来るよう、情報の内容・形態、広報媒体の最適化を図る。

(1) 普及啓発イベント・講演会の開催

① 介助犬フェスタ2021の開催

介助犬認知度向上を目的に11回目の継続実施をする。5月22日(土)開催予定。昨年引き続きオンラインで開催し、広く一般に介助犬普及啓発、協会の活動紹介を行う場とする。

② 啓発活動の継続実施

- ・恒例イベント／講演会の引き受け

社会情勢に応じて、対面型とオンライン型のイベント実施を継続する。オンライン型イベントの可能性を積極的に検討し、配信内容の拡大を目指していくとともに、オンラインイベント開催に必要な技術習得を行う。

- ・肢体不自由者への啓発

開催される福祉機器展にて、介助犬希望者となりうる肢体不自由者への啓発を行う。

ウェルフェア 2021 : 5月20日(木)～22日(土)開催予定 (ポートメッセなごや)

ヨコハマヒューマンテックランド 2021 : 開催日程未定 (パシフィコ横浜)

バリアフリー2021 : 8月25日(水)～27日(金) 開催予定 (インテックス大阪)

国際福祉機器展 2021 : 11月10日(水)～12日(金) 開催予定 (東京ビッグサイト)

- ・「はたらくワンワンランド」参加

「ガンバレ！介助犬！JA共済はたらくワンワンランド」へ、状況が許す限り参加する。

- ・企業タイアップ大型企画の実施

読売巨人軍および菅野智之投手(介助犬サポート大使)とタイアップし、チャリティ商品の企画・販売等を行うことで介助犬の認知度向上につなげる。他企業・団体とのタイアップの可能性を検討し、これまでの実施事例を公表できるようまとめる。

(2) PR 犬の育成・訓練

啓発活動を行うPR犬の育成・評価、訓練を行う。

(3) マスコミ対応

- ①新聞やテレビ番組などのメディアに対し映像・写真素材の提供を行う他、積極的にメディア露出できるようプレスリリースを行っていく。各種メディア掲載実績をホームページで公開する。

(4) 会報誌・ホームページ、その他制作物を活用した広報展開

魅力ある会報紙面・ホームページ、制作物を作成し、支援者獲得、チャリティグッズ販売促進へ繋げる。漫画「介助犬ライカ！」をPRに活用する。

(5) SNS(ツイッター・フェイスブック・インスタグラム・ユーチューブ)の活用

ツイッター・フェイスブック・インスタグラム・ユーチューブの各特性を活かした情報を発信し、支援者とのコミュニケーションを図り新たな支援者獲得を目指す。

(6) リハビリテーション専門関連学会、獣医療関連学会へのブース出展等

リハ専門職の介助犬への理解を深めるため、関連学会へのブース出展、デモンストレーション等の機会を得る。

【学会一覧】

学会名	日程	開催地
第56回 日本脊髄障害医学会	2021年11月18日(木)、19日(金)	栃木県総合文化センター(栃木県)
第13回 日本身体障害者補助犬学会	2021年11月20日(土)、21日(日)	川村義肢株式会社(大阪府)

(7) ボランティア向け講習会・交流会等を、オンライン中心に計画・実施する。

3.公益的な活動

- (1) DIを導入している以下の機関へのハンドラー指導を継続的に行う。
機関名:聖マリアンナ医科大学病院、箱根病院、楓の丘こどもと女性のクリニック
- (2) 聖マリアンナ医科大学病院、箱根病院、多摩病院、野のすみれクリニック、千葉リハビリテーションセンターにてDI活動を実施する。
- (3) With You プロジェクトとして、障害児向けイベントの開催及び、障害児・者に対して、自宅で役立つキャリアチェンジ犬の譲渡を行う。
- (4) DIを希望する専門職・専門機関からの相談に応じる。

※DI:Dog Intervention(特別に評価及び訓練をした犬を医療現場等に介入させること)

4.相談・指導助言

介助犬希望者がより正確な情報を得られるように、体験会・相談会、体験入所等のプログラムの充実を図る。

- (1) 介助犬希望者への相談支援
 - ① 介助犬に関心のある障害者を対象に、毎月の見学会に合わせて、またはオンライン開催にて相談会を実施する。
 - ② 合同訓練を開始する候補者を対象に、体験入所またはそれに準ずる評価等を実施する。その他必要に応じて実施する。

5.調査研究

障害者が介助犬等との生活をより円滑に送るための研究調査を行う。

- (1) 各学会への参加、演題登録
11月20日(土)、21日(日)に大阪府大東市にて開催される第13回日本身体障害者補助犬学会への参加、学会団体会員として一般演題発表等を行う。
- (2) リハ専門職等との補助具の開発
横浜市総合リハビリテーションセンター等のリハビリテーション工学士・企業と介助犬使用に関する補助具の研究を行う。

6.関係団体協力

良質な介助犬を育成するため、関係団体と訓練犬確保、繁殖情報の交換や繁殖協力関係の強化を図る。その他犬の活躍の場となる関係団体からの協力要請に応じる。

(1) 補助犬育成団体との連携

- ① 日本盲導犬協会、北海道盲導犬協会、関西盲導犬協会、九州盲導犬協会、東日本盲導犬協会等との繁殖、キャリアチェンジ犬の導入、研修先としての団体間の関係継続に努める。
- ② 日本身体障害者補助犬学会へ団体会員として加盟する。

(2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

諸外国の補助犬団体と、介助犬の育成や繁殖事業に関する交流を充実させる。

- ① ADI(Assistance Dogs International)の査察を受ける。
- ② Career Dogs Australia と犬の導入等についての相談を行う。

(3) 医療・福祉・行政等との連携強化

7.補助・助成申請

(1) 令和3年度

【決定】

- ① 全国労働者共済生活協同組合連合会:100万円
教職員共済生活協同組合:250万円

事業名:動物介在療法・動物介在活動の実施、及びその活動に適した犬の導入

【申請中】

- ① 愛知県共同募金会:32万円

事業名:肢体不自由者の自立・社会参加・就労支援のための介助犬育成施設の犬舎
整環境整備

【申請予定】

- ① 愛知県:12万円(予定)
事業名:愛知県内における介助犬啓発事業
- ② 長久手市:30万円(予定)
事業名:介助犬広報啓発事業
- ③ 中部ウォーカーソン:申請額未定
- ④ 長久手市ふるさと応援活動支援事業:申請額未定
- ⑤ デンソーグループはあとふる基金(使途指定寄付):申請額未定

8. 管理・運営

(1)理事会・評議員会の開催

社会福祉法その他法令に沿った法人運営を適切に行う。理事・監事および評議員等他役員改選に必要な手続きを進める。

(2) 寄付収入および賛助会員数増加施策の検討・実施

安定した事業運営基盤の確立に向け、寄付収入および賛助会員数増加のためのファンドレイジング施策・コミュニケーション施策を検討、実施する。

- ① 法人会員・法人支援者へのアプローチ回数を増やし、新規支援の獲得を目指す。
- ② 主にマンスリー会員数・口座振替会員の増加を目指し賛助会員の新規入会促進施策を検討、実施する。既存会員の継続のため会報やメールでのニュースレター配信等を通じた会員とのコミュニケーションの充実を図る。
- ③ 収益事業を充実させ、社会福祉事業へ組み入れる寄付額の最大化を目指す。
- ④ イベント・街頭募金活動等の件数減少による収入減を補う策を検討する。
- ⑤ 寄付型ラッピング自動販売機の導入を促進する。

(3)計画的な施設保守・営繕の検討・実施

介助犬総合訓練センターの建物・備品維持保全にかかる新たな改修計画策定に取り組む。保有車両について、最適及び計画的な保守に努める。Wi-fi 環境整備によるネットワーク環境の改善に取り組む。

(4)業務効率化とコストダウン施策の検討・実施

限られた経営資源を有効活用するため、業務の見直しを図り業務効率を向上する。併せて、経費節減施策を検討、実施する。

(5)労働環境の整備と法令の遵守

働き方改革等の法令を遵守し、職員の働きやすさを実現するため、就業環境の見直し、整備を行う。

(6)目標設定・人事評価システムの導入

9.人材育成・研修

(1) 訓練技術向上

飼育管理担当者、パピー担当者等のすべての訓練部職員が OJT により犬のハンドリング技術の向上を目指す。また、目指すゴールの明確化、訓練犬の評価方法の見直しを図り、訓練技術向上に努める。

① 訓練士の育成

訓練担当者への OJT の他、合同訓練の見学の機会を与え、目指すゴールの共有化を図る。

② 研修生の募集

第 16 期研修生を募集する。(2022 年 4 月～2023 年 3 月)

(2) 研修

① リハビリテーション関連、犬関連に関する研修会へ職員を派遣する。

② Career Dogs Australia Lauren Elgie 氏より、繁殖・パピー育成プログラムについてコンサルティングを受ける。

③ 広報活動に必要な技術向上のため、セミナー等へ派遣する。

④ 目標設定研修を引き続き実施する。

⑤ 階層別研修を行う。